



あひ

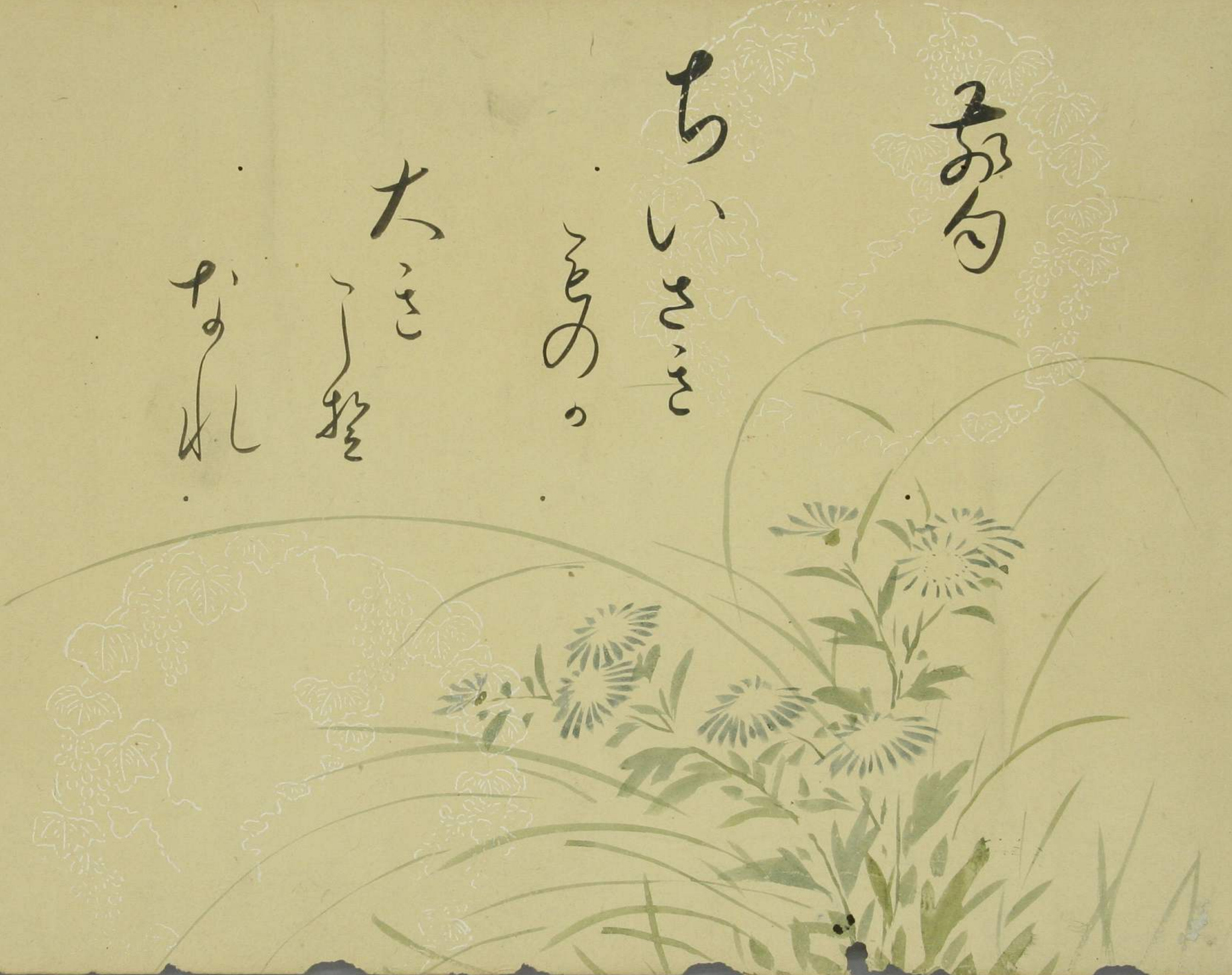
ち
しん

の

大さ

し

の



本のかにちんあひしん
柿味

あひのちんあひしん



念。想。有。り。見。る。事。も。

此。凡。の。由。は。漢。の。し。ま。し。な。り。
武。有

救。に。は。行。の。せ。な。る。事。も。

群。衆。を。十。七。八。と。し。て。

み。ち。の。ひ。も。ぬ。か。れ。ぬ。事。も。
八。木

身。の。ま。は。ら。ぬ。事。も。

今。の。い。は。れ。ぬ。事。も。

感。受。文。の。し。

み。ち。の。ひ。も。ぬ。か。れ。ぬ。事。も。

月。の。あ。ら。ぬ。事。も。

在。中。の。事。も。

心。の。ま。は。ら。ぬ。事。も。

山崎のてしむるに記す是

手あふれ時に受へしはらり
はま

あやうしに申ふを来ればおま
自

あやうしに申ふを来ればおま
無

伊志のよしきやう

あやうしに申ふを来ればおま
らりて

あやうしに申ふを来ればおま
朱

あやうしに申ふを来ればおま
全

あやうしに申ふを来ればおま
軒頼

あやうしに申ふを来ればおま
佛

あやうしに申ふを来ればおま
義

あやうしに申ふを来ればおま
松

己るおうかいそれ虎乃梅原

あせ乃らういんかたあまのあまの川

家種に中免と申すまお積 新置

毎露ふや一なるまうかたあまの天

新吹一虎とうそ物くるまあま

相言は乃神意然いんあまの

截あまのあまのいんあまの

松人のあは時あまのあまの丹

下路くのあまのあまのあまの富

あまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまの

今期及一し厚とれ松とらあまの

あまのあまの

春をるるよき入景を視るれ

今朝乃一し厚とれ松とら

若香はかすし心家に建し

今も此よ好味又とて程い川

公に此よ好味又とて程い川

こい乃とまこ此味とあら

入も春波こまこ此味とあら

武地ハ虫月合にる君の時ハ全

大佛と拾ふこまのハ枚子

行巻二九二句

河長也

片し

未ノ十月廿二日

由徳

武地八虫用言に及る時八全

大佛三拾二の八枚子

三拾二

并是二十九二句

三拾二

三拾二

未ノ十月廿二日

三拾二

三拾二